

清水口小学校区ワークショップ～みんなが主役のまちづくり～報告書

1 ワークショップの狙い

- ・「アクション」を意識する機会にする。
⇒何かやってみてもよいかも。
自分たちの活動はこれでよい。
今ある活動にちょっと参加してみよう。
- ・小学校区まちづくり協議会のイメージを少し膨らませる。
⇒こんな組織・場があったらいいかも。
こんな風に小学校区まちづくり協議会を活用していけるとよいかも。

2 概要

- (1) 主催 白井市、清水口小学校区まちづくり協議会設立準備会
- (2) 日時 令和8年1月18日（日）午後2時～4時30分
- (3) 会場 清水口小学校3階コンベンションルーム
- (4) 参加者 計34名（清水口小学校区まちづくり協議会設立準備会委員22名、一般参加3名、市職員9名）

3 実施方法

- (1) 企画設計及び進行
NPO 法人 urban design partners balloon 鈴木 亮平氏、桐山寿賀子氏
- (2) プログラム

時間	内容
2時05分～2時15分	清水口小学校区まちづくりアンケート調査概要報告
2時15分～2時45分	事例紹介・小学校区まちづくり協議会への提案
2時50分～3時00分	ワーク説明
3時00分～3時20分	第1ワーク「アクションカードの作成」
3時20分～3時40分	第2ワーク「アクションカードの共有」
3時40分～4時10分	第3ワーク「コラボカードの作成」
4時10分～4時30分	コラボカードの振り返り

- (3) ワークの内容
第1ワーク「アクションカードの作成」
 - ・各参加者が、「団体での活動」または「個人の想い」について、「今取り組んでいること」「これから取り組みたいこと」「関心を持っていること」のいずれかを記入する。第2ワーク「アクションカードの共有」
 - ・作成したアクションカードを机に並べて、参加者同士見せ合う。

- ・他の人のアクションカードを読んで周り、気になったカードに「共感する」「詳しく聞きたい」「参加してみたい」のいずれかのシールを貼る。

第3ワーク「コラボカードの作成」

- ・「一緒にやってみよう」「コラボしたい」という想いを共有し、どのようなコラボができるかを考える。

4 ワークショップの様子





4 結果

(1) ワークショップで記入されたカード枚数

アクションカード56枚、コラボカード19枚

(2) 参加者の主な感想

- ・ 普段話さない人とも話すことができた。
- ・ 地域のことを考えるきっかけになった。
- ・ 実際に活動に参加してみたい。
- ・ 人と人が集まることで、やりたいことを叶えられるという感覚が掴めた。
- ・ 他小学校区と同じことをやってもいけないと感じた。アプローチの方法を考えていく必要がある。

5 成果

参加者同士、日ごろの団体での活動や、個人の思いを共有することで、これまで把握できていなかった清水口小学校区内の多様な活動を知る機会となり、相互理解が深まった。

また、新たな地域活動の企画や、既存の地域活動の連携を進めていく意識が生まれ、住民主体のまちづくりに向けた意識の醸成につながった。

小学校区まちづくり協議会の理想的な姿について、イメージを共有することができ、小学校区まちづくり協議会の設立に向けて、有意義な機会となった。